

目 次

口 紂

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長

上田市長 平尾 哲男

東京大学名誉教授・前国立歴史民俗博物館長

石井 進

はじめに

中世の歴史を二冊に分けたのは 市村高田以下五ヶ荘の年貢 荘園の消滅 幕府料国船山郷の年貢

国人領主と一揆の契約 国人領主相互の争い 信濃における戦国時代の指標

第一章 京と鎌倉のはざまで

第一節 大塔合戦と芦田下野守討伐 :

一 大塔合戦

大塔合戦とは 大塔合戦を伝える史料 長秀の信濃国入り 大文字一揆の反対

長秀の善光寺入り

国人に対する長秀の振る舞い

国人勢の布陣 長秀方のうごき

大塔古要害の戦い 大井光矩の仲裁

幕府による国人の制圧

二 再び守護による信濃統治………				
家督を譲られた小笠原政康　　鎌倉府の足利持氏　　小笠原氏再び信濃守護に				14
三 芦田下野守の反抗………				
大井氏と芦田氏の争い　　芦田下野守討伐				16
四 結城陣番帳………				
結城合戦　　結城陣番帳				18
第二章 室町時代の上田地方				
第一節 「御符礼之古書」と神使御頭の記録………				
御符礼之古書　　守矢満実書留と神使御頭之日記　　室町時代の史料				23
第二節 国人領主の所領と争乱………				
一 海野氏の所領と青木郷………				
海野氏の所領と神川の東岸　　林三ヶ条のあとは　　岩下郷と岩下氏　　海野青木郷の頭役と頭人				27
二 神氏系矢沢氏………				
矢沢幸有の神使御頭の勤仕　　神氏系矢沢氏は天文十年まで　　小県における矢沢氏の断絶				27
神氏系矢沢氏の所領				
三 上田と大田・海野・小宮山氏………				
上田とは　　御符礼之古書の上田の記録　　海野氏家臣小宮山氏の進出　　米山城と小宮山				30
四 踏入郷は神氏から海野氏に………				
踏入に神維国　　踏入を海野氏が押領　　踏入の不思議				33

五 常田荘域の郷村	41
造宮帳の記録	室町期の常田荘域の郷村
六 塩田と村上・福沢氏	
塩田の上社頭役	塩田の領主が変わった
村上氏幕府に降参	頼清、関東公方に属して没落
頭役銭の増減	頼清が関東公方に接近した理由
前山寺三重塔の未完成	村上政清の所領と勢力
文明年代の塩田	村上氏代官福沢氏
塩田と村上・福沢氏	福沢氏は村上氏の庶流か
七 小泉地域と室賀	
小泉地域と上条郷	
(1) 小泉地域と上条郷	
流亡した上条はどこにあつたか	上・中・下条は小泉荘内と称す
(2) 飯山の泉氏は小県と別系か	
飯山の泉氏に対する諸見解	上杉朝貞宛行状のなかの疑問
飯山の泉氏は小県と別の系	飯山の泉氏は小県と別の系
(3) 安保氏の過失と室賀郷	
安保泰規の憂き目	安保宗繁の応永・永享史料
前後が不明の室賀貞信	
八 浦野と岡	
浦野と岡	
(1) 浦野氏の称津氏代官と青木谷への分族	
田沢への分族	浦野分族三氏の神使御頭の勤仕
三氏の本姓は浦野氏	称津氏代官浦野神直貞
九 岡と岡村氏	
岡村氏は大石の代官	岡村氏と浦野氏との関係
第三節 海野と村上の衝突	
一 応仁の合戦	
海野と村上の衝突	
二 村上氏砥石城へ進出	
海野氏と村上氏の交戦	塩尻岩鼻の交通
千葉城はどこか	交戦の勝敗
矢沢の弓矢	

戦国時代の状況からさかのほる

砥石城の不思議

村上時代の城と真田氏時代の城

第四節 室町時代の社会

78

一 牛頭天王之祭文と蘇民将来符

78

信濃国分寺の牛頭天王之祭文

牛頭天王の信仰

牛頭天王立像

78

二 町屋と市

81

町割りの残る町屋

市商いの品

町屋の周り

81

三 古銭の発掘

86

上田市岩門出土の古銭

上田市内出土の古銭

なぜ埋めたのでしょうか

86

四 塩田城の城下町

89

城下町の侍屋敷

城下町の市場や町屋

第三章 武田氏の来攻

第一節 天文十年海野平の戦い

95

ねらわれる信濃

海野平の戦い

海野宗家滅亡

海野攻めはなぜ?

海野平合戦その後

村上氏の小県の所領

福沢氏の川西地方支配

第二節 武田氏の小県地方の攻略と所領化

103

武田氏の信濃進攻

武田軍が敗北する上田原の戦い

信玄の砥石くずれ

葛尾城落城

塩田城自落村上氏滅ぶ

所領の宛行と岡城

上田市域の所領支配

第三節 甲越の戦いと関東への進出

川中島の戦い 上野進出 生島足島神社起請文 小県武士の起請文 転戦の日々 信玄逝く

長篠の戦い 勝頼の転戦と新府城 武田氏滅びる

第四節 戦乱の世と民衆

武田氏の軍役 諸役と庶民 亂取と民衆 戰乱の世の女性 戰乱の世の祈り

二斗で一俵の俵と上田樹 国樹と国俵 野倉惣帳でみる野倉村人の階層 貫高・検地・一貫文

第四章 室町・戦国時代の城館跡

第一節 上田の城館跡の概要

151

第二節 太郎山・虚空蔵山の城館跡

154

一 城砦群の時代の背景

154

二 太郎山の城館跡

156

北林城跡 緑ヶ丘西の館跡 牛伏城跡 荒城跡 花古屋城跡 砥石城跡・米山城跡

金剛寺の城代屋敷 柏山城跡 伊勢崎城跡 長島の堀の内

三 虚空蔵山の城館跡

157

虚空蔵山城跡 鳥小屋城跡・高ツヤ城跡 和合城跡 物見城跡 燕城跡 持越城跡 飯綱城跡

158

118

132

第三節 川西地区の城館跡	174
一 室賀氏の城館跡	174
室賀氏館跡と笛洞城跡 伊勢崎城跡・跡部城跡	
二 浦野氏の山城跡	177
浦野古城跡	
三 小泉氏の城館跡	177
小泉氏館跡 小泉城跡 須々貴城跡 小泉曲輪	
四 武田氏の手になる岡城跡	182
岡城跡	
第四節 塩田地区の城館跡	187
一 村上氏（福沢氏）の城館跡	189
塩田城跡 吉沢城跡 峰小屋城跡 女神山城跡 馬伏城跡 海部野城跡	
二 町屋の館跡	189
御所畠とは 在家地名	
第五節 上田東部地区の城館跡	196
一 矢沢氏の城館跡	198
矢沢古城跡と矢沢城跡	
二 神科台地西端の城館跡	198
染屋城跡	

第六節 城下地区の城館跡

小牧城跡 御所・中之条の堀の内

おわりに

執筆分担

あとがき

参考文献

上田市誌の編さん組織

表 紙 「米山城図」（長野市杵測典厩寺蔵）
裏表紙 「室賀信俊起請文」（上田市生島足島神社蔵）